News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２６年　１ 月 24 日　No. 19
発行責任者：校長　櫻井郁男

面接練習



正月、香港時代の教え子に面接試験のアドバイスをする機会がありました。

中学校生活での１番の思い出を語らせたところ、シンガポールへの修学旅行だったとのこと。理由を問うと「行ったことのない場所で、地図を頼りに班行動をして、力を合わせ目的地にたどり着いたことです」との返答でした。さらに「何を学びましたか」と尋ねると「みんなで協力する大切さ」と胸を張って答えました。

さて、皆さんはこの面接をどのように評価しますか。

みっちり 30 分間の練習が終わり一呼吸おいて、私は「この面接で不合格にならない学校はたくさんある」「でも、君の受験する学校では、面接点を稼ぐことはできないよ」と率直に説明しました。

海外に住んでいることのアドバンテージは「外国語を話せること」なのでしょうか。彼の志望校では英語力は高く評価されます。しかし、受験生に尋ねたいことは、「異国ならではの体験」です。彼の答えで国内の中学３年生と違ったのは、東大寺の大仏がマーライオンになっていただけでした。補習校の皆さんはどのような思い出を作るのでしょうか。

アメリカといえども治安や交通の便、そして「保護者同行ルール」もあり、「学校・家庭・習い事等」中心の生活も多い状況は理解しますが、異文化に身を置いていることを意識すれば、たくさんの刺激があります。



年末に「メリー・・・・・」ではなく「ハッピーホリディ」と挨拶をすることを「経験し」「なぜ」と感じ「どうして」と考え、「わけ」を尋ね「なるほど」と理解し・・・さらに考えを深めていく。気づきから生まれる課題意識こそ、帰国生を問わず、これからの社会が若者に求めている資質なのです。



来年度は教育指導の重点として、「言語活動の充実」を教育育方針で強調しています。学校は、「話すこと　聞くこと　読むこと　書くこと」等、国語科の基礎基本を伸ばすことに心がけますが、学んだことを、「聞くこと　問うこと　聴くこと　訊くこと　尋ねること　傾聴すること」と置き換え、身の回りの情報を活用して自らの考えを深め、発信できる人になってほしいものです。

前号の訂正・・・気温のお話　「さて、1 月 7 日、ニューヨーク日本人学校の卒業式を待つ間、「16 度」という気温が話題となりました。私は、摂氏-16 度ではないだろう、気温は摂氏氷点下４～５度かな・・・」と書きましたが、**実際には「－15.56℃」と報道（週間 NY 生活）されていました。**（摂氏－15.56 度　零下 15.56 度　氷点下 15.56 度）・・・たくさんの表現がありますね。